

2009年 APLAC(アジア太平洋試験所認定協力機構)第15回総会及び関連会議報告

2010年1月

独立行政法人 製品評価技術基盤機構
認定センター(IAJapan)

2009年12月5～11日にインドネシアにおいて、アジア太平洋試験所認定協力機構(APLAC)第15回総会及び関連会議が以下の日程で開催され、当認定センターから5名が参加したほか、日本からは、(財)日本適合性認定協会(JAB)、(株)電磁環境試験所認定センター(VLAC)および日本化学試験所認定機構(JCLA)が参加。

	午前	午後
2009年12月5日(土)	理事会	
6日(日)	理事会	
7日(月)	技能試験委員会	
	研修委員会	
8日(火)	技術委員会	
	広報委員会	
9日(水)	MRA(相互承認)評議会	
10日(木)	MRA(相互承認)評議会	総会
11日(金)	総会	

各会議の概要は以下のとおり。

■ 総会

1. 参加者:

メンバーである26カ国/経済圏43機関のうち22カ国/経済圏38機関の代表約120名(不参加メンバーはペルー、ブルネイなど)、他の国際機関等3名(EA:欧州認定協力機構、PAC:太平洋認定協力機構、PTB:ドイツ連邦物理・技術研究所(ドイツのNMI))の代表が出席。

2. APLACメンバー

正会員と準会員の投票に関する報告あり。(正会員の追加はなし。)

3. 役員の改選等組織関係

- 議長; T.Chan(HKAS, 香)、MRA 評議会議長; B.Ashcroft(IANZ, NZ)、理事; R.Robinson(A2LA, 米)、R.Robertson(NATA, 豪)、Vu Xuan Thuy(BoA, 越)は前回の総会にて改選のため非改選、理事2名の改選があり、新理事(任期2年:2011年12月31日まで)には N.Jou(TAF, 台)、KF.Chen(SAC, 星)が選出。
- 事務局長が2010年6月末で交替。APLACの立ち上げ以来のH.Liddy女史(NATA)の後任には、

Michel Fraser 氏(NATA)となる。同氏は今回総会にて紹介された。(引き継ぎを兼ねて総会に参加)

- 現時点の財政面は健全であり、法人として完全に独立できていると同時に資産も余裕有り。ただし、今年、来年と赤字が見込まれるため、技能試験・研修等は一定の絞り込みを行うとともに、2-3年後の値上げ可能性を検討する必要があるとの報告。

4. 相互承認(MRA)関係

- 新規でスリランカ SLAB の相互承認参加を承認。
- 継続案件では、CALA(加)、JAS-ANZ(豪一新)、TAF(台)、ONAC(泰)、ema(墨)が相互承認地位を継続。(ONAC は旧 TLAS が認証機関認定と統合した新組織。)
- MRA 利用の促進については、電気・通信分野について経済効果のアンケートを実施することとなった。日本としてもメーカーへのアンケートを実施予定。

5. 技術課題

- RMP 認定 MRA の技術指針としての TC008 について改訂途中の報告があった。IAJapan のコメントは概ね受け入れられた。(投票の進捗状況としては遅れていることが後日判明(投票期間の延長中。))
- 技能試験の分野別頻度について、ILAC 指針で明確な数値が無くなったことから APLAC として作成するかで議論。結論は出ず。
- ソフトウェア試験の認定について新たな WG が設置された。(認定センターは ASNITE-IT の関係で参加する予定)
- フィールド・現地試験について、どの程度現地で審査を行うべきかについて、WG での主要議題として検討していくこととなった。

6. ILAC, IAF, EA との関係

- ILAC-IAF 統合の検討については ILAC の投票が一カ国一票となったことについて、今後、機会を捉えて ILAC 投票ルールの改善を申し入れることとされた。
(尚、ILAC-IAF の将来構想についての投票は APLAC 総会后締め切られ、結果が 12 月 18 日に発表された。ILAC は現状維持、IAF は部分統合という結果となり、全体としては「現状維持」という結果となった。)
- EA が相互承認マークを制定した件について話題となり、他地域の認定に対して排他的に働く可能性について(主に米国の認定機関から)懸念が表明されたが、これまでにはそのような報告は無く、今後の推移を見守ることとされた。

7. APLAC 文書関係

- 新規制定、改定: 1) APLAC 戦略的計画(SEC 053)、2) 訓練関係ガイドライン(TR002)、3) 職員交流(TR003)

8. 研修関係

- 前回からの進捗として 15189 医薬ラボワークショップの報告あり。
- 2010 年予定の研修： ISO 17011 研修(5 月、韓国)、ISO Guide34 研修(6-8 月、北京)、ISO/IEC 17043(PTP 認定)WS(9-11 月、台湾)
- 2011 年以降： CMC/BMC WS (2011 年 5~7 月)、17020WS(2012 年)、17025WS(2013 年)

9. 2010日本総会について

- 総会の最後に大阪のプロモーションビデオ等で概略を紹介。
- 円—ドル為替レートの円高進行に伴い、参加費の上限を800ドルから1000ドルへ値上げすることを求め、(理事会で)承認された。
- 試験所認定の規制法規での利用を中心としたセミナー開催について講師4名(米、星、英、香)の了解が得られた。
- 会場設営等の詳細について事務局と総会後に協議。

10. 今後の予定 (主なもの)

2010 年 5 月 10, 11 日 ISO/IEC17011 研修 (ソウル、韓国)
12, 13 日 MRA 評議会 (ソウル、韓国)
14, 15 日 理事会 (ソウル、韓国)
2010 年 12 月 4~10 日 総会及び関連会議 (大阪)
2011 年 9 月 10~17 日 " (フィリピン)

以上